

令和4年度 浜田市との共同研究事業

## 県大町内会

角 能 (地域政策学部地域政策学科地域公共コース)

mail; y-kado@u-shimane.ac.jp

# 報告の構成

1. はじめに

2. アンケートの結果

2-1: クリスマスイベント参加大学生

2-2: クリスマスイベント未参加大学生

3. 殿町まちづくり委員会メンバーからの感想

4. まとめ

5. 県大町内会の今後の課題

# 1. はじめに

## 1-1. 本報告の問い

・地方の大学がある自治体に居住する大学生は、どのような生活の構造の中で、地縁組織やそこでのイベントに参加しているのか。

→

・浜田市内の大学に通う大学生は、どのような生活時間の配分の中で、浜田市殿町地区の町内会連合組織の活動に参加しているのか。

・県大町内会=浜田市殿町まちづくり委員会大学生支部  
(島根県立大学浜田キャンパスの大学生1年生～3年生7名が参加)

## 1-2. 町内会を研究対象とすることの社会的意義

- ・緊急時の地域での相互扶助の基盤となりうる

→地域における近隣住民の間のネットワークの必要性

⇔地域に居住していない友人、地域に居住していない人々から構成される選択的な対人関係の組織では、緊急時の迅速な対応は困難

- ・緊急時の相互扶助のためには、平時からのネットワークが重要

(板倉2014:214参照)

- ・介護や医療の専門家によるケア支援につなぐためには、地域住民による発見が重要

(永田2017:27)

## 1-2. 町内会を研究対象とすることの社会的意義

- ・地域の異質な住民から成るネットワークの必要性

→ (異質な近隣住民から成る) 居住関係に基づいて構成されるのが、町内会

⇒

- ・世代を超えた相互扶助、交流の必要性という点で、

町内会メンバーと大学生とのつながりの必要性

- ・継続的な世代間交流の場の必要性

→ 浜田市野原町にある島根県立大学浜田キャンパスには、毎年一定規模以上の大学生が入学し、継続的な若者の地域資源となりうる

### 1-3. 町内会への学生参加の課題の可能性も踏まえた分析の必要性

- ・町内会以外のイベント・活動との両立可能性を踏まえる必要性

→

- ・町内会の活動そのものが参加者にとって負担になっていないかを検証する必要性

- ・地域活動の場が町内会以外にも存在する可能性を踏まえた分析の必要性

## 1-4. 県大町内会の活動の概要

7月:担当教員の角能がメールを使って、浜田キャンパスの全大学生対象に  
県大町内会の参加呼びかけ(2022/7/4~7/31)

→6名の学生から応募

・7/22:はじめて大学生が殿町まちづくり委員会に参加

8月:担当教員の角能が、2名の大学生に直接声掛け

→2名の学生が追加で参加

10/16:殿町防災クロスロードに参加(3名)

・9/8:殿町まちづくり委員会

・9/29:殿町まちづくり委員会

・10/5:県大町内会

## 1-4. 県大町内会の活動の概要

12/18:クリスマスイベント(殿町まちづくりセンター)に参加(4名)

- ・10/5:県大町内会メンバーで打ち合わせ
- ・10/17:県大町内会メンバーで打ち合わせ
- ・10/18:殿町まちづくり委員会
- ・11/2:県大町内会メンバーで打ち合わせ
- ・11/9:殿町まちづくり委員会
- ・11/22:パンフレット掲載予定のメンバー紹介作成
- ・11/22:殿町まちづくり委員会
- ・11/23・12/2・3・6・15・17:イベント参加メンバー1名による商品調査・買い物
- ・12/12:殿町まちづくり委員会
- ・12/13:リハーサル

→

県大町内会メンバーの1名が所属している放送サークルオロCasのメンバーと2名が所属しているアカペ  
ラサークルイエローカイトにゲスト出演を依頼し、承諾を得る。当日の司会は、放送サークルオロCasメン  
バーが担当

## 1-4. 県大町内会参加大学生対象アンケートの活動の概要

- ・県大町内会メンバーで最も準備に時間を割いた活動である12/18実施の  
殿町まちづくり委員会クリスマスイベントおよび  
通常の町内会活動（殿町まちづくりセンターでの活動）、  
平時の生活時間（アルバイト・ほかの地域活動）や  
居住地区・所属学部・学年について、アンケート調査、そのほか、  
参加してみたい項目やクリスマスイベントの進め方の感想（よかった点や改善して  
ほしい、改善したい点）についての自由記述。
- ・クリスマスイベント参加大学生と未参加大学生とで一部異なる質問項目。

第1回アンケート:2022/12/18(クリスマスイベント参加者4名・未参加者3名)

第2回アンケート:2023/1/26(クリスマスイベント参加者3名のみ:町内会の開催  
頻度と時間などについて)

## 1-5. 殿町まちづくり委員会メンバーへのインタビュー調査

- ・2/6 委員会時に、本報告の「県大町内学生会生へのアンケート調査の結果とそれに関する考察」の部分を報告し、その際にメンバーと質疑応答の時間を確保
- ・3/16 委員会時に「振り返り」の時間を座談会形式で設定

## 2. アンケート結果

### 2-1: クリスマスイベント参加大学生

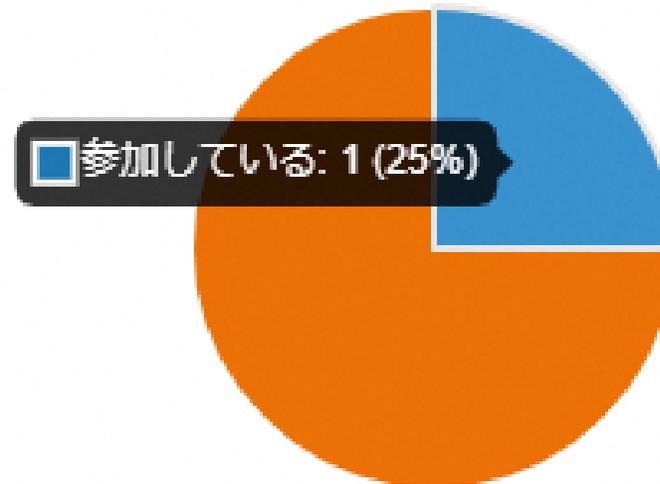
2-1-1: クリスマスイベント参加者は  
全員アルバイトをしながら殿町クリスマスイベントに参加

図1: アルバイトの有無(クリスマスイベント参加者)



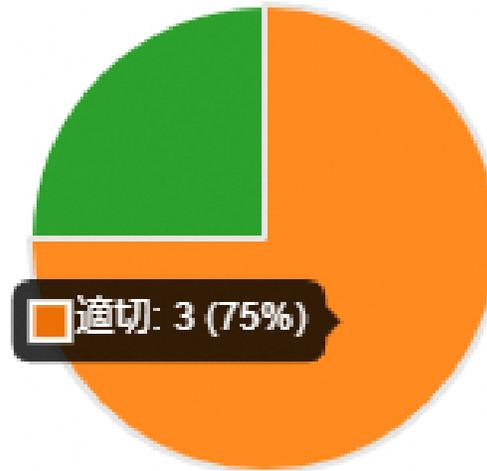
## 2-1-2: クリスマスイベント参加者は 4人中3人まで、他の地域活動に参加していない

図2: 地域活動への参加の有無 (クリスマスイベント参加者)



2-1-3: クリスマスイベントに参加した学生は  
4人中1人が準備時間が短い、3人は適切と回答

図3: イベントまでの準備期間 (クリスマスイベント参加者)



2-1-4: クリスマスイベントに参加した学生は  
4人中2人がほかのイベント・用事との日程調整に苦勞

図4: ほかのイベント・用事との日程調整の苦勞  
(クリスマスイベント参加者)



2-1-5: クリスマスイベントに参加した学生は  
4人中1人が大変やりがいを感じた、3人がやりがいを感じたと回答

図5: クリスマスイベント当日のやりがい (クリスマスイベント参加者)



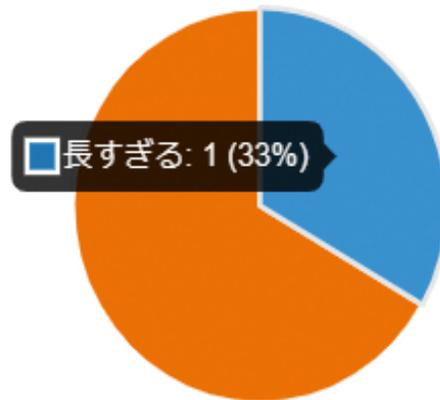
2-1-6:クリスマスイベントに参加した学生は、  
回答した3名全員が、町内会の開催頻度について、適切と回答

図6:町内会の開催頻度(月2回弱)について  
(クリスマスイベント参加者)



2-1-7:クリスマスイベントに参加した学生は、  
町内会の時間について、3人中2名が適切、1名が長すぎると回答

図7:町内会の時間(各回90分強)について  
(クリスマスイベント未参加者)



## 2-2:クリスマスイベント未参加大学生

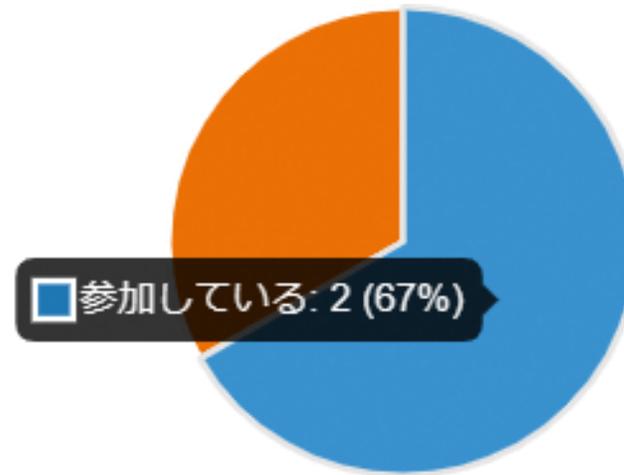
2-2-1:クリスマスイベント当日参加しなかった学生は、  
3人中2人までアルバイトはしていない

図8:他のイベント・用事との日程調整の苦勞  
(クリスマスイベント未参加者)



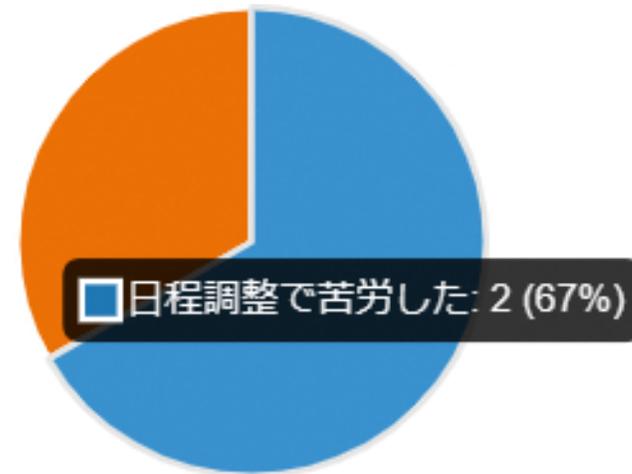
## 2-2-2: クリスマスイベント当日参加しなかった学生は、 県大町内会以外の地域活動に3人中2人まで参加している

図9: 県大町内会以外の地域活動への参加  
(クリスマスイベント未参加者)



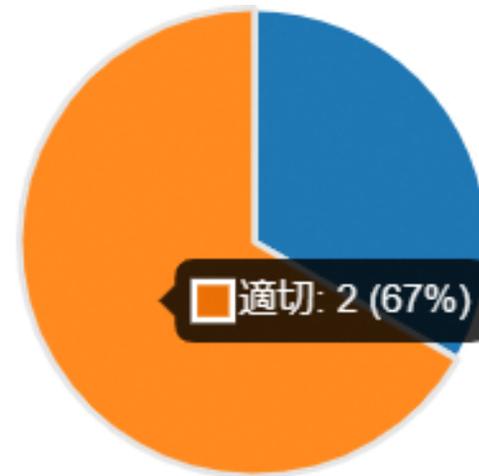
2-2-3: クリスマスイベント当日参加しなかった学生は、  
3人中2人まで準備段階で、  
他のイベント・用事との日程調整に  
苦勞している

図10: 他のイベント・用事との日程調整の苦勞  
(クリスマスイベント未参加者)



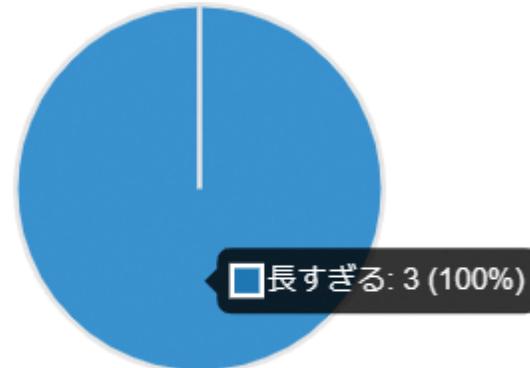
2-2-4:クリスマスイベント当日参加しなかった学生は、  
3人中1人が町内会の開催頻度を多すぎる、2人が適切と回答

図11:町内会の開催頻度(月2回弱)について  
(クリスマスイベント未参加者)



## 2-2-5: クリスマスイベント当日参加しなかった学生は、 3人中全員が、町内会の時間を長すぎると回答

図12: 町内会の時間(各回90分強)について  
(クリスマスイベント未参加者)



## 県大町内会大学生からの今後の希望・課題（自由記述）

- ・イベント参加大学生からは、自身の段取りへの反省という感想
- ・イベントに参加しなかった大学生からは、学生間での情報の共有の不十分さ、結果として特定の学生への役割の偏り、もう少し参加をしたかったと希望するケース
- ・イベント参加大学生からは、年度末年度初めの卒業生／新入生を祝う会や地域の人々との交流のイベントの希望
- ・イベントに参加しなかった大学生からは、町内会の大人のメンバーについて、自身の関心のあるメンバーとさらに企画を立てたいという希望

（プライバシー保護のため表現を修正）

# 3: 殿町まちづくり委員会メンバーからの感想

## 3-1: すでに行われている地域の活動に、学生が参加して交流するという方法

「地域へのコミュニケーションとか、そういったところは欠けてたというところは、多分に否めないと思います。今お話を聞いている中で思ったんですけども、まずは学生さんたちが実際現場に出て何かやろうといった時に、これは多分時期的に合わなかったというのがありますけれども、来年度早々に殿町の一斉清掃なんかがあると思うんです。

殿町●町内というのは、●●(殿町内の地区名)の下は、麓のところというのは

人数が少ない上に、草がぼうぼうに生える所があって、僕らはマンションだから人数多くて草もない所なんです。だからあつという間に終わるんだけども、じゃあそこに回ってくれというのはなかなか言いにくいんで。終わりましたって見ると、やっぱりまだやってるんです。

30、40、50ぐらいボランティア袋に草が詰められて出されている状況なんですけれども。

地域の交流というか、そういったところを目指すのであれば、各町内さんにもそういったところがあるかどうか僕はよく分かりませんが、もしあるのであれば、そういったところを手伝ってもらおうという形。それも1つの地域交流のところだと思うんで。」(3/16)

### 3-2:町内会(まちづくり委員会)が場所や機会を提供し、 大学生のアイデアを反映させるという方法

「まちづくり委員会で用意してあげるんですよ。そのために考えた(中略)。  
そしたらすごくうまくいくもの(中略)。

だって県大生が参加していただいたクリスマス会、すごいよかったじゃないですか。あの広告すごいじゃないですか。おっちゃんが考えてもできません。彼らが考えて、人を集めるあれがあったから、うまくいったと思うんです。今回もいちご狩りのすごい、いいあれが出てたでしょう。やっぱり絶対に彼らの能力を活用して、地域の活性化に役立ててもらうべきです。」(3/16)

### 3-3:地域の課題解決の担い手としての大学生という視点だけではなく、 世代を超えて気軽に交流できる場という視点の必要性

「手伝ってではなく、『花見するから来んかね』というような交わり、  
年ごとに重ねていって、素敵になつなかりができる。」(2/6 メモ・●さん)

「まずその子ども食堂は、その次の段階として、殿町のわれわれだけと県大  
生、それがまずは初めましてじゃないですか。はっきり言ったら。いきなり初め  
ましてで、あんだ、あれ手伝っちゃいなさい、これやっちゃいなさいって、多分  
それはなかなかお互いが話しにくいと思うんです。

さっき●さん言ったように、まずコミュニケーション図るために、それを自分  
たち、まず内輪だけで、弁当作って配布とかじゃなくて、自分たちで作って、●  
で食べながら、あんだどこの出身なんとか、そういうところからのほうが、軽  
い感じだと思います。」(3/16)

### 3-4:何か特定のことを目的とする場だけではなく、自由に触れ合う場の必要性

—受け入れ側、参加側双方にとって負担が少なく、

大人・子どもの固定した関係に陥らない気軽な関係を形成しやすいという利点—

「あったらいいなって思うことは、子どもたちと、小学生とかとの触れ合いというか、何がいかっていうのはちょっとあれなんですけど、1個、この前ちょっと●●(県内の別の市町村)に行った時に聞いた、何もしない合宿ってというのができれば面白いなと思っていて、何もしない合宿って、本当何も、プログラムがあたりするわけじゃなくて、夜、お風呂入って、パジャマ着て、寝袋持って集合して、そこ体育館が会場だったんですけど、体育館で遊んだりとかして、寝て、朝ちょっと遊んで、ご飯までに家に帰るとい、本当に、夜寝るちょっと前と、寝るところとっていうところだけなんですけど、すごい子どもたちがいろいろ遊んで、普段やっぱテレビだったりとかゲームだったりとかじゃなくて、何か遊ぶ。何もなくてもいろいろ遊べるという、そのの場に関わってくれる人がいてとか。

やっぱお兄ちゃん、お姉ちゃん、小学生にとって大学生ぐらいの人って、大人ではなくて、いろいろ話をするのに、よく言う斜めの関係みたいな感じで、そういう家族とか先生とか以外のつながりのある人がいるという環境だったりとか。今やっぱコロナでなかなかそういう触れ合いというのが少なくなってきたので。

何か毎月プログラム立ててキャンプみたいなのは大変だけど、何もしなくて、そのの場に取りあえずいて、そこで生まれたことで遊んでいくみたいな感じのことみたいな。そういう、子どもたちと何かできることがあると面白いなと思って。あとは夏休みの宿題の学習支援みたいな。そういうのをやってもらえると。」(3/16)

### 3-5:受け入れる地域の人々にとって、無理のない、交流の場の必要性

「あんまり●さんにも負荷がかからないような、誰々に負荷が掛からないような。みんなで支えるような参加型のそういったものができれば。

あんまりわっと最初からしなくて、少しずつやってみて、評判聞きながら、継続ができることが一番なので(略)」(3/16)

(以上、第3章は、内容を変えずに一部表現を修正)

## 4.まとめ

①参加した大学生の、町内会のイベント（以後「殿町まちづくり委員会クリスマスイベント」のことを指す）そのものに対する満足度は高い

⇔

②一方で、町内会のイベントの準備に際して、他の用事との日程調整に苦勞している大学生の存在。

・町内会のイベントに参加していない大学生において特に、町内会以外の地域活動に参加しているケースが顕著。

・町内会のイベントに参加していない大学生において特に、町内会の参加時間の長さが負担になっているケースが顕著。

⇒

・ほかの地域活動への参加の現状で、町内会の参加時間が負担になっているケースがあり、結果的に学生参加型のイベントにおける情報の共有不足、イベントに参加している学生への負担の偏在が発生。

⇔

・イベントに参加した場合の満足度は高く、町内会の参加時間が負担になっている大学生からも関心のあるテーマを実践している町内会メンバーとの間での企画を希望する意見あり。

③地域の人々との（町内会の開催場所ではなく）日常生活の場での交流の機会（たとえば地域の人々との菜園等を通じた交流）の不足

→担当教員によるマネジメントの不足。

・殿町まちづくり委員会（町内会）からの提案、地域の人々のイベントの場への参加に対して、県大町内会が受動的になっていた側面も。

# 5: 県大町内会の今後の課題

①町内会活動の中で、学生参加型活動に関わる部分と関係ない部分とを峻別し、前者の枠内のみ共通の会合で検討する必要性

→

・学業や生計を立てるのに必要なアルバイト等との両立を確保

②他の地域活動に参加している学生や自身の関心のある活動の企画を希望している学生もいることを踏まえ、町内会ではできない活動と(町内会以外でも可能な)地域の活動で可能なことの整理の必要性。

→重複している部分は整理し、町内会は地域活動への接続の役割を担うことの必要性

⇔

・一方で、町内会以外にも、町内会とつながりが弱い地域活動団体が存在していることに伴う参加者の選択肢の確保、地域活動の多様性の担保という利点も加味することを念頭におく必要性

(白波瀬2017のアイデアを参照)

**③担当教員によるマネジメントの必要性**

→特に、地域の高齢者等と交流する場に、学生を連れていくような場を担当教員から設ける必要性。

**④町内会からの大学生のアイデアの反映する機会の提供、すでにある地域活動に大学生が参加してみることの重要性。**

⇔

**⑤特定の課題の解決を目的とした交流だけではなく、気軽に出入りする中で  
の交流の場の必要性。**

**⑥受け入れる地域の側にとって過大な負担にならないように、漸進的に  
地域の活動の場への県大町内会大学生の参加を進めることも重要。**

# 引用文献

板倉有紀, 2014, 『災害・支援・ケアの社会学』生活書院.

白波瀬達也, 2017, 『貧困と地域』中公新書.

永田祐, 2017, 「地域福祉とは何か」川島ゆり子ほか著『地域福祉論』ミネルヴァ書房:21-37.